サービスラーニングをふりかえって

社会福祉学部社会福祉学科２年　丸山　一心
活動先：NPO 法人　東海市在宅家事援助の会　ふれ愛
ゼミ：村上　徹也先生

私は、今回のサービスラーニングで人と人とのコミュニケーションというものを改めて学ぶことができ、さらにグループホームでの利用者さんとの関わり方を学ぶことができた。今回のサービスラーニングでは１週間という短い間だったが、グループホームで利用者さんとふれあうということをさせてもらった。午前中は自分たちの企画したレクリエーションを通して利用者さんとふれあい、午後は自由時間を会話や折り紙などをしてふれあった。その活動を通して、様々なことを発見しそして学ぶことができた。

自分たちのレクリエーションを通して利用者さんとふれあう中で、職員さんの指摘や助言などから様々なことを学ぶことができた。まずは、人と関わり始めるときには、まず自分を知ってもらうということが大切であるということを学んだ。

事前打ち合わせの時に職員さんから、学生が突然来て１週間触れ合おうとしても、お互いどのように関わればよいか分からないから、まず自分のことを知ってもらうことをした方がよいというアドバイスをもらった。それを受けて１日目のレクリエーションは、自分たちを知ってもらうということで自己紹介をした。ここで自分たちの出身地について紹介したが、まさにこれが利用者さんと関わるきっかけづくりとしてとても大切な役割を果たしてくれた。自己紹介なしにいきなり触れ合うことを始めていたら、お互いのことを知らないので最初のあいさつはできるが、そのあとの会話が続かなかったかもしれない。しかし、自己紹介をして自分のことを少しでも知ってもらったため利用者さんから出身地について聞いてもらったり、逆に利用者さんの出身地について聞いたりして会話を深めることができ、利用者さんとスムーズにかかわり始めることができた。初対面の人と関わるときに、情報開示（自分のことを知ってもらう）ということがとても大切だと学んだ。

また、レクリエーションをすることによって、会話では気づけない人の一面や性格を知ることができることを知った。レクリエーションの中で、ビンゴゲームをやったが作業の中でビンゴカードづくりをやった。自分たちの用意した絵の色塗りやその絵をどの位置に貼るかなどの作業だったが、利用者さんの作業のスピードが違い早く終わってしまった利用者さんや作業がなかなか終わらない利用者さんがいて、まとまってやるレクリエーションとして駄目だったかもしれない。しかし、作業を通して色塗りをとても細かくやって色にもこだわっている利用者さんや、ビンゴカードに自分のアレンジを加えたりするなど利用者さんの個性を発見することができた。会話では垣間見ることができない利用者さんの新たな一面を発見することができたし、触れ合うということは会話だけではなくレクリエーションのようなことも大切なことを学んだ。

午後の自由時間でも様々なことを学ぶことができた。今回行ったグループホームでは、認知症の人が暮らしていた。認知症をあまり理解していなかったし、実際に認知症の人に今まで会ったことがなかったのでとても不安だった。利用者さんの中には、暴言を言ってきてとても怖い利用者さんがいた。しかし、めげずに午後の自由時間で関わり続けていると、後半の方では触れ合ってくれるようになった。怖がって避けるのではなく関わり続ければ、態度を変えてくれるということも学ぶことができた。また、利用者さん同士が些細なことから喧嘩になってしまったことがあった。そんなときに職員さんはただ諌めるだけではなく、一方の利用者さんを外に連れ出して散歩に行かせていた。そのようにして場の雰囲気を落ち着かせるという現場ならではの対応の仕方も学ぶことができた。

１週間という短い間だったが今回のサービスラーニングではとても多くのことを学ぶことができた。グループホームという現場に実際に行くことで福祉に関しての知識を少しでも得ることができたし、成長することができた。その中でも人と人との触れ合いということに関して学んだことは今回の一番の学びである。自分は初対面の人と接するということがあまり得意ではない人間である。しかし、今回のサービスラーニングでは、職員さんのアドバイスなどもありしっかり触れ合うことができた。自己開示することによって関係を築きやすくできるし、また利用者さんとの会話では、戦争の体験談など普段は聞けないことなども聞け、とても勉強になった。人と関わり触れ合うことでこんなに自分にとってプラスになるということに気づけた。触れ合うということは私たちが生活するうえで基本的なことであり、また一番大切なことであると感じた。

しかし、今の日本では核家族化が進み、家族の関係性が希薄になっている。さらに、地域のつながりというものも弱くなってきており、人と人が触れ合うということが少なくなってきている。ふれ愛では、グループホームやデイサービスなどの施設運営だけではなく「くらしのたすけあいサービス」ということもやっている。これは、保育と園児送迎などの子育て支援や、ゴミだし・買い物などのお年寄りのお手伝い、掃除・洗濯などの体の不自由な方へのお手伝いなどの地域住民のお手伝いサービスをやっている。これは、地域の助け合い団体として市民が自発的に発足させた団体であるふれ愛だからこその活動であるが、今の日本のように人と人とのかかわりが希薄になっている社会ではとても重要な活動である。本来なら家族や地域住民でこのような助け合いというものが自然に行われることが一番良いことだと思う。しかし、今のような社会では、自然に助け合うということは難しい。だからこそ、ふれ愛のような NPO の活動が必要であると思った。

今回、人と人との触れ合いということについて、サービスラーニングを通して様々なことを学ぶことができた。無縁社会といわれる今の日本の社会でもう一度人と人との触れ合い、つながりを築きなおしていかなければならない。そして、ふれ愛の「くらしのたすけあいサービス」のようなことを、地域の住民同士でできるような社会にしていかなければならない。